

風疹について～風疹にかかったことはありますか？～

大泉 NewsPaperNo. 22 (2008. 11. 1 発行)

風疹とは？

風疹は「3日はしか」といわれ、風疹ウィルスによっておこる感染症で空気感染で拡がります。幼児期から学童期に多く発症しますが、妊娠早期に罹患すると胎児に感染し、「先天性風疹症候群」を引き起こすおそれがあります。

症状

発熱、発疹、リンパ節の腫れがおもな症状です。発熱は約半数の人にしかみられません。

発疹は、顔や首から始まり身体中に拡がりますが3日程度で消えてしまいます。

上記のような症状が現れない場合は、溶血性レンサ球菌による発疹、伝染紅斑などと鑑別するため病原診断を行います。

先天性風疹症候群とは？

免疫のない女性が妊娠初期に風疹に罹患すると、風疹ウィルスが胎児に感染して、出生児に先天性風疹症候群(CRS)と総称される障害を引き起こすことがあります。

「先天性風疹症候群」の発症率は、

妊娠4週目までに罹患した場合…**50%以上**

5～8週目の場合……………**35%**

9～12週目の場合……………**15%**

13～16週目の場合……………**8%**

20週目以降の感染では、胎児の器官はすでに形成されていますので、ほとんど影響はないといわれています。

症状

先天性風疹症候群の3大症状は、

1. 先天性心疾患
2. 難聴
3. 白内障 です。

このうち、先天性心疾患と白内障は妊娠3ヶ月以内の感染で発生しますが、難聴は妊娠3ヶ月のみならず、その後の感染でも発生し、高度難聴になる確率が高いとされています。

3大症状以外には、緑内障、網膜症、肝脾腫、血小板減少、糖尿病、発育遅滞、精神発育遅滞、脳性麻痺などがあります。

風疹ワクチンについて

風疹は終生免疫といい、一度風疹に感染すると終生抗体を保有し再感染を起こすことはほとんどありません。風疹ワクチンを接種すると約95%の人が免疫を獲得します。

注意！！

持続期間は、およそ15年経っても抗体価はあまり低下しないという成績が得られてますが、周囲に風疹の流行がないと抗体価は次第に下がってきます。

また、風疹ワクチンは生ワクチン(毒性を極力弱くして作ったワクチン)なので妊娠してからは接種できません。接種後、体内から風疹ウィルスが消失するまでの間(接種後2ヶ月間)避妊する必要があります。

したがって、接種1ヶ月前から接種後2ヶ月の計3ヶ月間は避妊する事になります

ただし、風疹ワクチン接種後に妊娠が判明したり、避妊に失敗してもこれまで風疹ワクチンによるCRS(先天性風疹症候群)の報告はありません。

※ ワクチン接種は当院では行っておりません。
小児科のある病院またはクリニックなどで接種可能です。



風疹抗体価について

上に記したように風疹は一度感染すると、再感染を起こすことはほとんどないとされていますがたまに抗体価が下がっていることがあります。

また、風疹に感染せずワクチンを接種した方も、できた抗体価が低い場合消えてしまうことがあります。血液検査により、自分が今どのぐらいの抗体価をもっているか調べる事ができます。

抗体価が16倍以下の場合…妊娠中に風疹に感染すると胎児に問題のおこる可能性があります。

初期には、風疹に感染しないように気をつけましょう。

妊娠前に判明した場合は、ワクチンの接種をおすすめします。

抗体価が32倍以上の場合…風疹に感染することはきわめて少ないといわれます。

抗体価が256倍以上の場合…比較的最近、ウイルスに感染した可能性が考えられます。

この場合は、再検査を行います。

血液検査でわかるので一度調べてみてはいかがでしょうか？



参考HP：妊娠と風疹について (mimirin.chu.jp/fu.html - 7k)

国立感染症研究所・感染症情報センター (idsc.nih.gov/idwr/kansen/k02_g1/k02_21/k02_21.html - 11k)

🌸 担当：(検査部) 金城 🌸